



令和5年5月19日

蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校
文責：校長 柿林 浩彦

第10号

10代のときこそ「絵本」を読もう ～「読み語り」を通じて～

本校では、地域のボランティア「おはなしころりん」の皆様による絵本の「読み語り」を、毎月1回、年間11回実施していただいております。原則、毎月第3金曜日の朝の会（8時10分～8時20分）の時に来校されますので、本日、今年度2回目の「読み語り」をしていただきました。

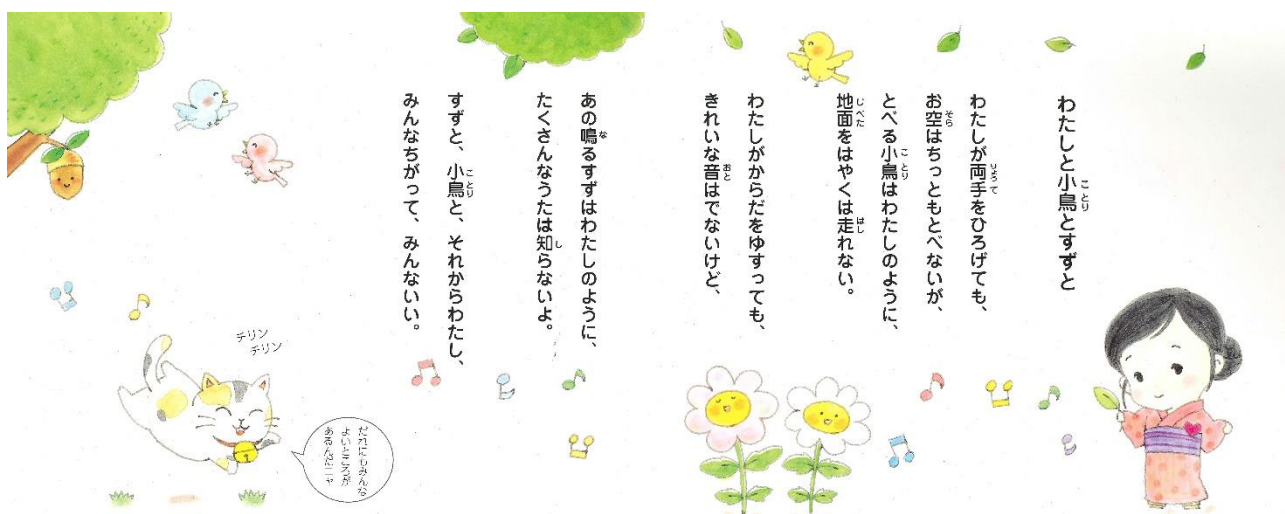
今回は、1年生は「ハコフグのねがい」「たんぽぽのふね」、2年生は「ねこはるすばん」「さかさことばでうんどうかい」、3年生は「Can I Build Another Me?」の絵本を読んでもいただきました。

いつもどのような「絵本」を読もうかと考えておられ、行事や季節、社会の出来事などに応じながら絵本を選んでいただいています。

子どもの頃は、絵本に触れる機会が多いと思いますが、だんだんと絵本を読んだり、聞いたりする機会は少なくなります。しかし、自分が親になったり、生活にゆとりができたりすると、再び絵本に触れる機会も増えてくると思います。そう考えると、中学生や高校生の頃が最も絵本に触れる機会が少ないかもしれません。そんな中学生や高校生の頃に、少しでも多く絵本に触れることは、感情を豊かにしたり、見方・考え方を広げたりすると思っています。生徒の皆さんには、毎月の「読み語り」を楽しみにするとともに、校舎2階に「おはなしころりん」の皆様の絵本が展示されていますので、ぜひ手に取って沢山の「絵本」を読んでほしいと願っています。「おはなしころりん」の皆様には、今後ともよろしくお願いたします。



丸ごと認めて、傷つけない ～みんなちがって、みんないい～



大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人である金子みすゞは、若くして亡くなくなりましたが、山口県長門市に「金子みすゞ記念館」があり、大変人気のある童謡詩人です。

代表作に「私と小鳥と鈴と」「大漁」などがあり、本校の絵本コーナーにも展示されています。

詩「私と小鳥と鈴と」の最後には、「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい。」とあります。これは「この世にあるものは、誰一人、なに一つ、同じものはなく、だからこそみんなすばらしい。」という意味であり、違う言葉で言い換えれば、「丸ごと認めて、傷つけない」ということだと「金子みすゞ記念館」では説明されています。

今では、ダイバーシティ（多様性）と言う言葉をよく聞きますが、この詩を読むと、なぜかホッとしたり、優しい気持ちになれたりします。

ぜひ、金子みすゞの誌や絵本を読んで、優しく心豊かな気持ちになってください。



年間指導計画（シラバス）を公開しています。

本校のホームページに、各学年が1年間で学習する予定を示した「年間指導計画（シラバス）」をアップしています。次のQRコードからご覧ください。



1年生



2年生



3年生